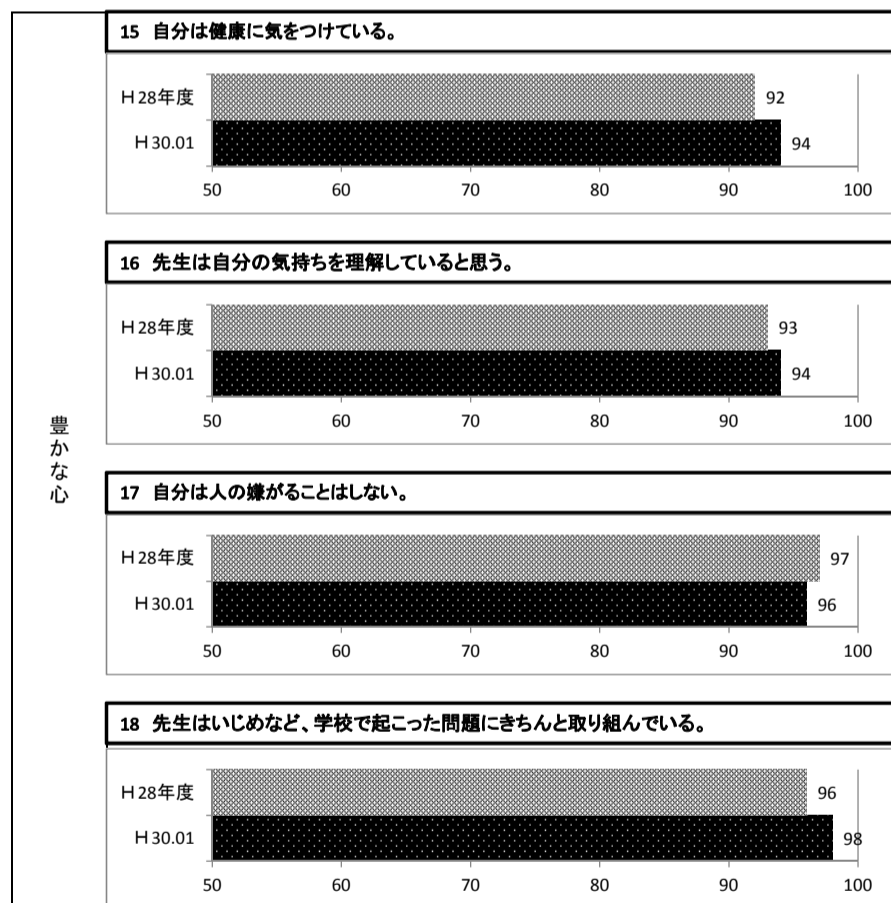
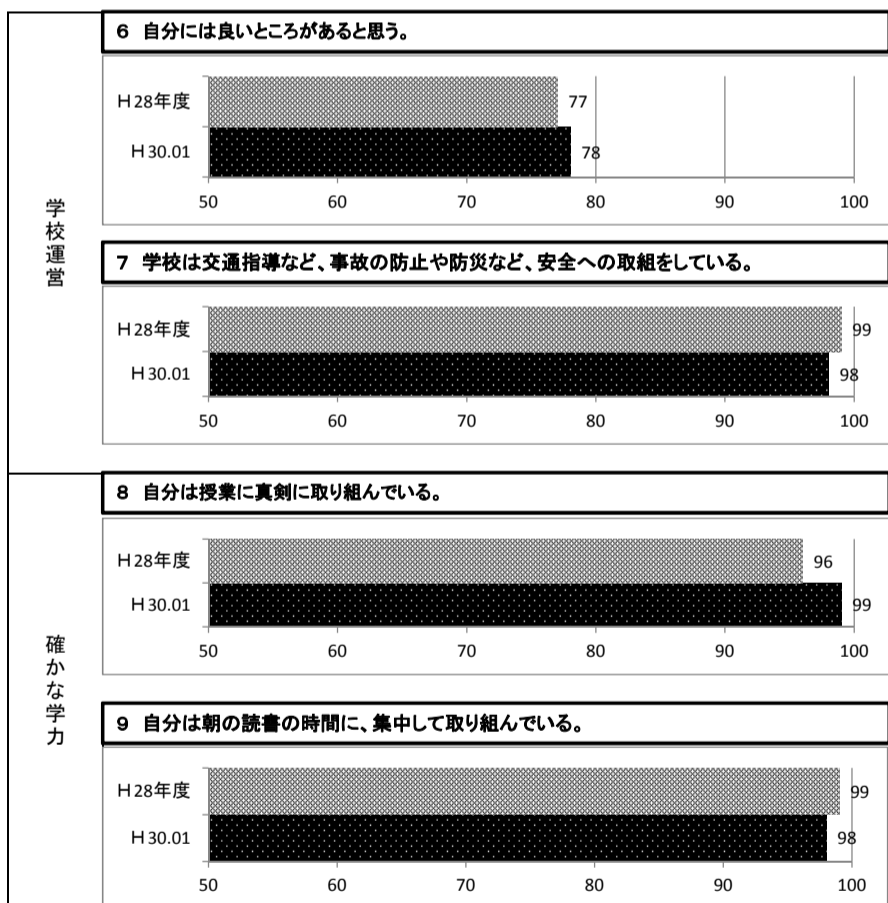
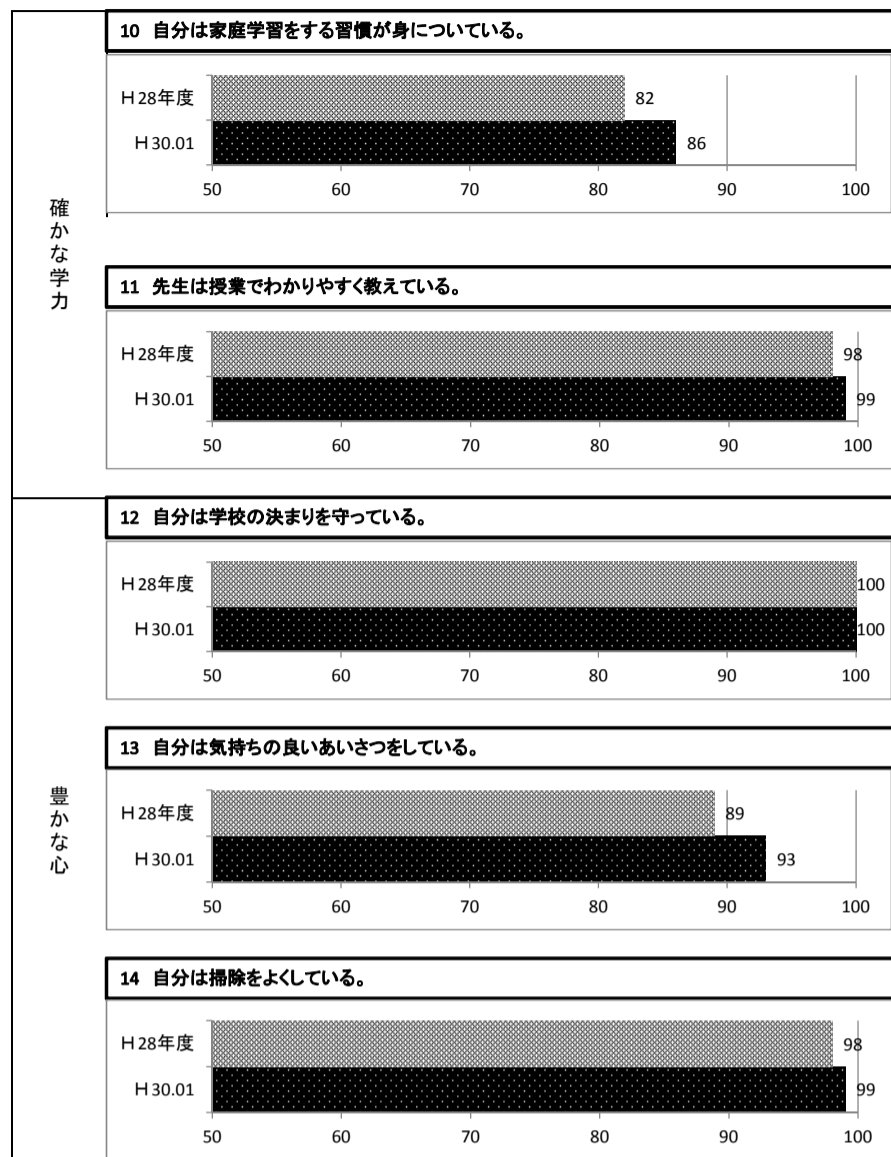
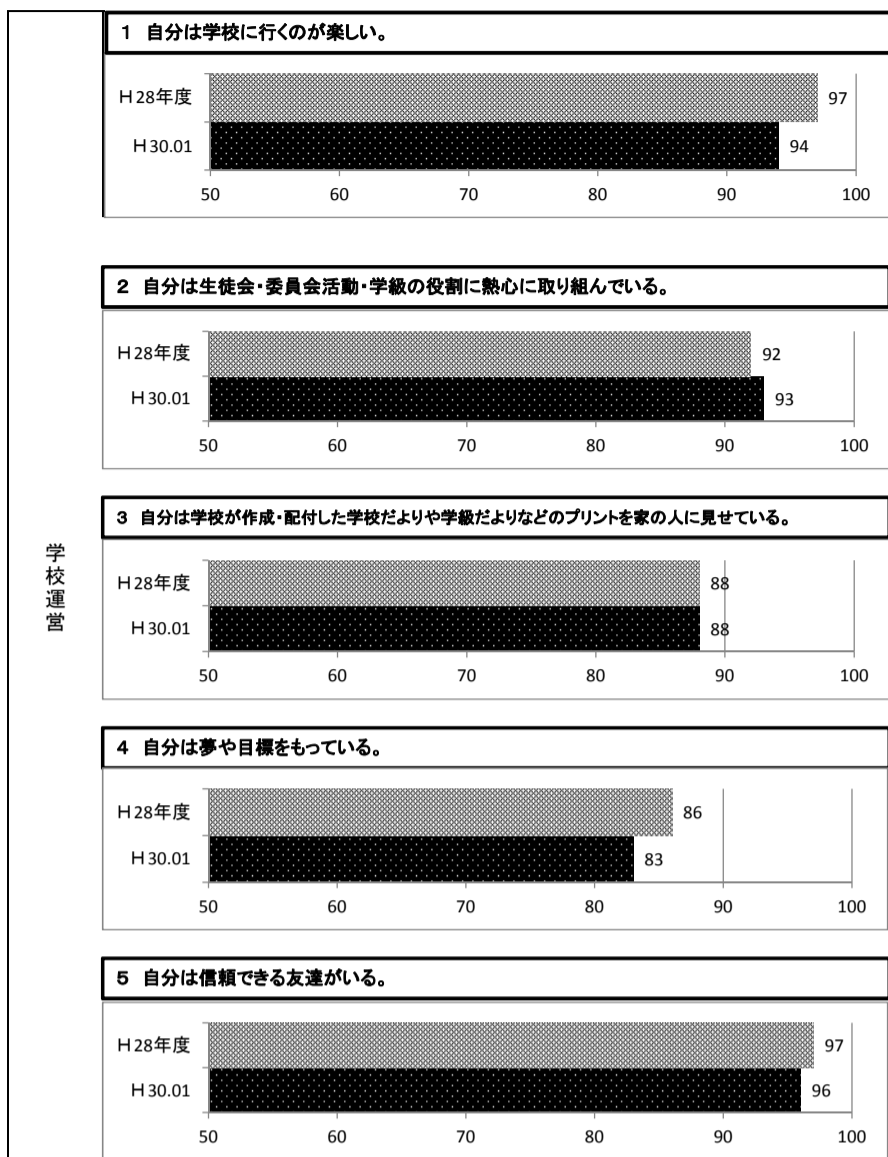


# 平成29年度 学校評価 生徒アンケート 30年1月実施結果



(考察) 昨年と比較して、10の質問項目で今年の肯定率が上がっており、2つの項目の回答が一緒であった。このことは、本年度9月に実施した前期の学校評価の際の13項目での下降を考えると、徐々にではあるが向上していると考えられる。その要因としては、様々な行事や経験を積み重ねることにより、みんなで取り組んだ連帯感、物事をやり遂げた後の達成感、充実感、何よりみんなで成し遂げた自信などが生徒に身についてきたのではないかと考えられる。これらを総合的にみると、生徒たちの学校生活がより充実してきていると思われる。特筆すべきは、「12自分は学校の決まりを守っている」が昨年度同様100%と高く、ルールは守らなければならないという規範意識が生徒の中に定着していると考えられる。次に、「8自分は授業に真剣に取り組んでいる。」と「14自分は掃除をよくしている。」という質問項目が99%で、学習意欲や清掃活動への取組の意識が高いことが伺える。また、「7学校は交通指導など、事故の防止や防災など、安全への取組をしている。」や「18先生はいじめなど、学校で起こった問題にきちんと取り組んでいる。」という質問項目が98%と高く、学校の取組や教職員の様々な事例への対応を生徒たちは評価してくれていると考えられる。このように、生徒と教職員の信頼関係が構築されてこそ、よりよい学校経営が行われていくものだと考える。今年も学校マニフェストにおいて、「6自分にはよいところがあると思う。」という生徒の自己肯定感を80%以上に高めさせようと努力してきたが、78%と達成できなかった。しかし、昨年度より少しではあるが高まっているので、引き続き生徒に寄り添い、的確な指導を行い、物事を成し遂げた際には褒めて認めながら、自己肯定感を高めさせていきたい。